

「私は可愛くないから仕方ない」レポート

こんにちは！兵藤さやです。

このレポートでは、

私が1歳の娘のママでありながら、

毎日家でまったり働きながら、
会社員並みの収入を得て、

「嫌な予定が一つもない」
「好きな人としか会わない」

というハッピーの極みのような生き方ができるようになったこと。

一方、それに至るまで、

自分の外見に自信がなく、
友だち付き合いが苦手なオタクで、
人の目ばかり気にして生きてきた、

という話を記したいと思います。

では、ここから始まりです。

2018年現在、私は夫と1歳の娘と3人で暮らしています。

会社員でも、専業主婦でもありません。

私は、
自宅やカフェや海外など、
好きな場所で好きなことだけして働きながら、

最愛の夫と娘と
大好きな仲間にもまれ、
会社員のときと同じくらいの収入を得ています。

私は自分で事業を始めました。

27歳、妊娠中のOLにして、
私は会社を辞めて、起業家の世界に飛び込みました。

それとは対照的に

次からは、

私が幼い頃から自分の外見にコンプレックスがあり、
オタク気質のネガティブ女子で、
友だち付き合いは苦手だし、
人から妬まれたり嫌われたりは日常茶飯事、

拳句の果てには会社員生活がつらくて鬱になるという、
どうしようもなかった過去を書き記していきます。

最初に言っておこうと思いますが、、、

自分を愛して、自分に自信を持ってないと
すべてが上手くいかない

可能性が高いです。

私はこじらせた性格のせいで、
いくつもの人間関係が崩壊してしまったし、
仕事だって上手くいかずに精神科通いになりました。

人間関係が上手くいかないと、
仕事だってプライベートだって上手くいかない。
負のスパイラルに巻き込まれている状態です。

それをここに記していこうと思います。

自分を愛せず、自分に自信がないから、

「自分の想いや可能性を、見ないふりをする」

これは全ての夢を阻害します。

私は大切な友人関係を壊してしまったり、
会社に恩を仇で返すようなことになってしまったりして、
全てを失ったような気持ちになったこともあります。

それを私の生々しい経験とともに記していきます。

私は1990年の冬に生まれました。

出身地は大阪。

父は全国転勤がある大手企業に勤めるサラリーマンで、
4年おきくらいに、
大阪、千葉、静岡、北海道、東京・・・と全国を転々と移り住みました。

転勤族だったので、母は専業主婦。
私が中学生くらいになったころから、パートをしていました。
4歳下にマイペースな弟がいます。

私が小学生のころは、
世代的に「モーニング娘。」全盛期。

幼い頃からアイドルや芸能への憧れが強く、
友だちとよくアイドルごっこをしていました。

このときの名残で、
今でも辻希美ちゃんが憧れのママの1人です。

モーニング娘。のオーディションを受けてみたい。
「天才てれびくん」に出演する「てれび戦士」になりたい。

そんな憧れを抱いて、
よく新聞にのっている子役事務所の広告や、
オーディション番組を画面の向こうでみていました。

とはいえ、

地方在住で、当時の私にとって、
芸能人なんて別世界の存在。

「やりたい」と声を上げることも出来ず、

背中を押してくれる人も居ず、

次第に

「私は可愛くないから、芸能人になるなんて無理」

と、自分で自分を納得させて生きていくこととなります。

ここで形成された

「私は可愛くない」

というセルフイメージは、
20代後半になるまで、非常に根深く、私の人生に関わることになるのです。

オーディションに挑戦することも無く
淡々と日々が過ぎていく中、

小学校5年生のときに、
自宅にパソコンがやってきました。

父の仕事で使うために買ったものです。

「私は可愛くないから、芸能人になるのは無理そうだ」

と諦めていましたが、
芸能の世界に入れなかった私は、

インターネットの世界で、
自己表現をすることに幸せを感じるようになります。

自分の絵や小説作品を、ネットで公開し始めたのです。

私は幼稚園児のころから絵を描くことが大好きでしたが、パソコンに出会ってから、クリエイター気質が加速しました。

ちなみに当時は、

「ONE PIECE」のアラバスタ編にハマっていて、ワンピースのファンサイトを作ったりもしました。

小中学生の女子向けで、流行していたサイト

「ふみコミュニティ」などにも居座っていました。

ここからズブズブとオタクの沼へと沈み、リアル中二病をこじらせているような、中学生へと成長していくこととなります。

私も今は一児の母ですが、もしこの話を親の立場の人で見ている人がいるならば、

強く言いたいのは、

ぜひ女の子には

「○○ちゃんは本当に可愛いね」

と心からの愛をもって、声をかけてあげて欲しいと思います。

男の子にもぜひ

「○○くんならなんだってできるよ！」

と勇気づけてあげてほしい。

私は両親のことが大好きですし、感謝の思いしかありませんが、
幼い私は素直で、思い込みが激しい子供だったので

「さやちゃんは可愛いね。芸能人にだって、アイドルにだってなれるよ！」

と言ってもらえなかったことが、

「私は可愛くないから仕方ない」

という、卑屈な自己形成に繋がりました。

別に、

「あなたはブスね」

と言われたわけではないのに、
ネガティブな妄想が膨らんでいったのです。

私の親は、芸能界は危ないと思っているタイプでした。
私を愛してくれていたからこそ、
私がちょっと興味を持っていたとしても、背中を押さなかったのだと思います。

子どもは親が大好きだから、

「こんな事を言って、ママに心配かけたくない」

「失敗して、がっかりされたくない」

そう思って、

無意識レベルで、言いたいことが言えない子どもになるのです。

私は、芸能人になりたい、挑戦してみたいと、
大きな声では言えませんでした。

少なくとも私の娘には、

私のように、
自分の本当の気持ちを無視して、

言い訳だらけで、
夢も希望も持てない人生を歩むことになってほしくないなと思います。

話を子どものころに戻します。

私が最初に入學した中学校は公立で、
県内トップレベルのヤンキー中学でした。

周りは中学生にして金髪ピアスだったり、
当時流行りのルーズソックスでギャル風だったり、

卒業式で、漢字だらけの刺繍の
特攻服みたいなのを着ている先輩もいました・・・。

私は小学校高学年から、
順調に「オタク街道」を歩み始めていたので、

ヤンキーにはならず、

むしろヤンキーの同級生にビビりながら、
真面目に勉強と部活に励んでいました。

その当時「ハリー・ポッター」が流行していました。

私はハリー役のダニエル・ラドクリフや、
ハーマイオニー役のエマ・ワトソンとほぼ同世代なのですが、

世界には同世代であんなに活躍している映画スターがいるのに・・・と
遠い世界のスターにやっぱり心の底で憧れていました。

芸能界への憧れはうっすらと持ったまま、
部活は「舞台表現」ができることに憧れ、吹奏楽部に入部。

楽器はサクスを吹いていました。
結構な強豪部で、県選抜の楽団にも所属。

映画スターにはなれずとも、
舞台上で演奏をすることはとても楽しく、

毎日のように朝練に行き、
筋トレや廊下の雑巾がけといった、

今思えば精神修行みたいなことも含め、
楽器の練習に励んでいました。

なお、中学は周りがヤンキーだらけだったので、
私の成績はオール5でした。

学校で勉強と部活に励み、
家ではネットサーフィンやオタク創作活動にハマるとい
う絵に描いたような真面目なオタク中学生。

一見、順風満帆な青春のようにみえますが、
荒れている中学校では、イジメも日常茶飯事。

靴に画鋲という典型的なイジメから、
廊下に墨汁撒いたりする、今思えば意味不明な非行、
授業中は先生イジメすら横行していました。

私も行きたくもないゲーセンで
友人の夜遊びに付き合わされ、

付き合わないといじめられるというような、
苦しい友人関係を保っていました。

見た目が地味だったので、ギャル風の友人からバカにされ、
ここでもまた

「私は可愛くないから仕方ない」

という外見コンプレックスが強まります。

その後、中学3年になるときに、
親の転勤に伴い転校し、
幸いにもヤンキー中学とはサヨナラすることが出来ました。

転校先の中学校は、打って変わって、
めちゃくちゃ真面目な生徒ばかり。

公立ながら、地域でも有名なエリート中学でした。

中3の転校後から塾に通い始め、
ヤンキー中学に在籍していたときとは違って伸び伸び勉強できるようになり、
高校受験も無事成功。

都道府県でトップの公立高校に進学しました。

ただしこの頃、
突然転校してきた私が、
結構良い成績を収めまくっていたので、

転校先のクラスメイトから僻まれました。

「さやちゃんは〇〇高校に行くんでしょ？いいよね～」

スルーすればいいものの、

自分に自信がないので、
こういう僻みにいちいち傷つき、

やっぱり友人関係にコンプレックスが強まります。

高校では、中学の頃から続いて好きだった
「舞台」が踏める、吹奏楽部に入りました。

ところが、
自身が吹奏楽の強豪中学出身だったということもあり、

スキル差がある部内で
上手く部員と歩み寄ることができません。

友人関係が上手く築けず、
忍耐力がなかった私は自ら退部し、

二次元の世界に逃避行。

中学でもギャルからバカにされ、
高校では部員と歩み寄れず自主退部、

この時点で、
私の友人関係に対するコンプレックスはピークに達します。

そんな私にとって、
インターネットやオタクの世界は心地よかった。

ここからオタク街道を更に突き進みます。

まずはパソコンでオタクサイトを作っては、

二次創作イラストや
小説を読んだり書いたりしていました。

ちなみに、当時ハマっていたのも少年ジャンプ系の漫画で、

- * 「テニスの王子様」
- * 「銀魂」
- * 「家庭教師ヒットマンREBORN！」
- * 「DEATH NOTE」

など。

あと大人になった今でも「名探偵コナン」が大好きです。

男女問わずの声優オタクでもあったので、
「声優グランプリ」とか「声優アニメディア」とかの
声優雑誌は毎月欠かさず読んでいましたね。

更にこの頃、インターネットで見つけた
東京で活動するコスプレイヤーさんに憧れ、コスプレに目覚めます。

もともと芸能に憧れ、舞台表現が大好きだった私にとって、
コスプレは最高の趣味になりました。

自分で衣装を作って、週末にコスプレイベントに出かけて撮影。
コスプレの趣味は、のちに大学生になっても続きます。

コスプレはとても楽しかったのですが、

それでも満たされなかった私は、
「芸能×アニメ」という大好きなジャンルの掛け合わせで、

高校卒業と同時に、
「声優」になりたいと思います。

ただ、幼少期から形成されてきた

「私は可愛くないから難しい」

というセルフイメージから自信を持たず、

声優の専門学校に通うと同時に、
「保険」と思って、東京の私立大学に進学します。

私の子供時代を語る上で、

「私は可愛くないから仕方ない」

というセルフイメージ無しに語ることはできません。

私は自信がなかったために、

- ・素直になれず
- ・可愛くない自分に自信を持つため良い成績を取り
- ・成績が良いことだけに誇りを感じて
- ・容姿をギャルからばかにされ、成績が良いことを僻まれ、孤立し
- ・孤立しても「一匹狼キャラの私もいいよね」と無理やり肯定し
- ・でもどこかで夢を諦めきれない、でも行動できない

という半端ないこじらせ女子になっていきました。

今思うと、本当に様々なものを失ってきました。

高校を卒業後、
日本人なら多分ほとんどの人が知っている、
東京の私立大学に進学します。

箱根駅伝で、母校を応援するのがお正月の楽しみです。

友人に僻まれながらも、
なんとか好成績だけをキープした結果、

親戚一同が喜んでくれるような、
高学歴切符をゲットしましたが、

残念ながら、大学で勉学に励むことは皆無で、

高校までに深めたオタク街道を
更に突き進む女子大学生になりました。

大学1年目で、声優の専門学校とダブルスクールをしながら、
コミケやらコスプレイベントやらでオタク活動に励みます。

ちなみに、声優の道は、
結構早いうちに諦めました。

堀江由衣さん、田村ゆかりさん、平野綾さん（「涼宮ハルヒの憂鬱」全盛期）など、

可愛いアイドル声優さんになるのが夢だったのですが、
厳しい芸能の世界に挫折します。

声優といえど、若い女性はルックスが超重要です。

ここでまた

「私は可愛くないから仕方ない」

と思いました。

そんなアニメ界にどっぷりな大学1年生を終えた頃、

あまりにも大学に友だちが居ない

という事実には危機感を覚えます。

大学生になっても、また出てきました、
友だちコンプレックスです。

大学のテスト前に、みんなは仲良くノートをコピーし合ったり、
勉強会を開いているのに、

私は一緒にやる友だちがいない。

オタク活動は楽しかったけど、
大学に友だちがいないので、学校に居場所がない。

単純に寂しかったのもありますし、

「このままじゃ就活やばそう・・・面接でオタクのことしか話せない・・・」

という下心MAXな理由で、
大学2年生からサークルに加入。

幼い頃から舞台表現が好きなことは変わらず、
大学ではダンスを始めました。

サークルに溶け込むべく、軽く脱オタして、
はたから見れば人並みのリア充大学生になりました。

ちなみに、

この頃始めたダンスは、
今でも趣味としてずっと続けていて、早いもので10年選手です。

今は自由とはいえ、個人のパソコン仕事なので、

チームメイトと身体を動かす趣味は、
私の人生の大切なライフワークです。

大学4年生のときには、
ずっとやってみたかった
秋葉原のメイド喫茶でアルバイトをしました。

オタク文化が大好きでしたし、コスプレイヤーでもあったので、
メイド喫茶のメイドさんは天職でした。

よく

「メイド喫茶って給料高いんでしょ？」

と聞かれますが、

むしろ可愛い制服で接客業をしたい子はたくさんいて、
倍率が高いバイトなので、ふつーに時給1000円です。

メイド喫茶のアルバイトも、
書類や面接で3件くらい落ちたので、

「私は可愛くないから仕方ない」

という言葉が呪いのように襲ってきましたが、

なんとか1件だけ採ってもらえて、
夢のように楽しいメイドさん生活を送りました。

お客様や職場が大好きでしたし、

可愛くないはずの私が
それまでの人生最高にちやほやしてもらえたと、

卒業する時には
お花やケーキなどのプレゼントもたくさんいただきました。

そんな大学生生活を終え、社会人になりました。

小学生の頃からの友だち
「パソコン」を職業に選び、

お給料も環境もとてもよいWebベンチャー企業に、
Webエンジニアとして就職します。

新卒で入ったベンチャー企業は、
本当に優秀な仲間ばかりで、
同期のエンジニアは理系大学院卒のメンズばかり。

ほぼ未経験で、文系大学卒、
パソコンが好きという理由でエンジニアになった私は、

同期の中では圧倒的なまでに最下位の
スーパー劣等生でした。

会社の仲間、先輩方に
死ぬほど迷惑をかける日々が始まりました。

ダメ社員にも関わらず、
あまりにも会社の仲間が良い方ばかりだったので、

期待に応えるべく、
最下位劣等生ながらなんとか踏ん張り、
仕事をしながらプログラミングを覚えました。

出来ない自分に優しくされるのは、非常に辛かったですね・・・。

おかげさまで、
3年ちょっと経った頃には、ある程度のWebエンジニアにはなれました。

得意なプログラミング言語はRubyとPHPです。

なお、

入社時からずっと優秀なエンジニアの同期たちは、
休日も趣味でプログラミングをしているような人ばかり。

私は会社の先輩方の期待に応えたくて、
平日こそ頑張ってみましたが、

休日までプログラミングしたいかと言われてもそうでもなく、

「仕事だから」

と割り切って頑張っていました。

世間ではそれが普通だと思っていましたが、

今思えば、

その同期たちが「仕事と趣味の境がない」人たちなんですよね。

当時は私自身パソコンという

「好きなシゴトを選んだ」つもり

だったので、
勘違いしていましたが、

今思えば、同じパソコンを使った仕事でも、

仕事のプログラミングと
自己表現の創作（イラストや小説）は別物です。

私が好きなのは自己表現でした。

小学生の頃から小説やイラストを書くのが好きだったのも、
モー娘。になりたかったのも、
吹奏楽部で舞台を踏むことも、
大学でダンスのサークルに入って人前で踊ることも、
コスプレ活動に勤しむことも、
声優のスクールに通ったことも、
メイド喫茶でアルバイトしたことも、

全部、自分を表現したかったんですよね。

でも、それを仕事にするなんて無理だと思ってた。

だって「私は可愛くないから」。

この「私は可愛くない」の呪いは、

本当に根深いです。

さて。

実はその後、

私は会社員でありながら、
夢だった芸能界で活動することができました。

デビューしたてだったアイドル
「乃木坂46」の舞台を見に行く機会があり、
同世代のひたむきさに心を動かされ、一念発起。

もう社会人ということもあり、
親に心配をかけたくないという思いも薄れ、

自らオーディションに挑戦したのです。

20歳を過ぎてからの芸能界入りはとても遅いのですが、
人生このまま終わりたくないという一心で挑戦。

社会人と並行しながら芸能活動をさせてもらい、
毎日がほんとうに楽しかった。

周りの人達も、
こんな私にできたファンの方々のことも、

心から大好きでした。

会社員だった私にとって、
芸能界というちょっと特殊な世界はとても新鮮で、
学ぶことも沢山ありました。

ただし、問題は体力的に限界だったということ。

当時は朝5時に起きてレッスンへ行き、
9時に出社、
18時に退社して、
夜にイベント、
帰宅するのは深夜1時前。

あまりにも睡眠時間が短すぎて、

そんなコンディションで正社員の仕事をこなせるわけもなく、
十二指腸潰瘍ができました・・・。

そしてもう一つ。

芸能人とは、
あくまで「商品」のような側面があるということ。

芸能人は、
プロデューサーや事務所など、
一緒にお仕事をする方の想いを背負って、舞台に立ちます。

そこで必ずしも、
自分の意志だけを押し通せるとは限りません。

私は「自己表現」がしたかったけれど、

実は、芸能という世界でも、
自分のやりたいことだけをやるわけではないということ、

経験して初めて学びました。

それは、一緒に進んでくれた
仲間やプロデューサーに感謝していたからこそ、
わかったことでした。

結局、身体も壊し、
芸能か会社員かどちらを選ぶとなったとき、

「私は可愛くないから仕方ない」

という私の呪いは解けず、
ほとんど迷うこと無く、芸能活動を手放すことにしました。

その後は、
魔法が解けたシンデレラのごとく、

ごく普通の会社員に戻りました。

社会人3年目で転職も経験。

変わらずWebエンジニアの仕事ですが、
そこで希望しない新規事業の立ち上げを担当することに・・・。

転職したてで、
典型的なNOと言えない日本人でした。

抜擢していただいた責任を感じて頑張ってみるものの、

そもそもモチベーションが上がらず・・・。

そんな私が

チームにとって良いパフォーマンスができるはずもなく、人間関係も悪化。

出ました、

人間関係コンプレックス。

ついに社会人5年目、

心身ともに病んで会社を数ヶ月休職。

あと一歩でうつ病と精神科で診断されました。

当時は、

朝になるのが怖くて、会社に行きたくないと夜に泣き叫び、
通勤電車では体調不良になって、途中下車して会社に遅刻してました。

完全にやばい人です。

会社がブラック企業だったわけでもないのに、
希望しない仕事を担当して、
人間関係をこじらせて鬱になるとか、

私の

人間関係コンプレックス

を強固たるものにするには、十分すぎる事件でした。

結局、私は

「自己表現」に限界がある

サラリーマンに向いてなかったんですね。

私は「可愛くない」コンプレックスで
芸能界に居続けられなかったのに、

やっぱり「自己表現」を諦めることができなかった。

でもその後運良く、
事業をするという立場になることができて、

28歳にして、

自由な時間と
「自己表現」が叶うクリエイティブな仕事、

愛する夫と愛する娘との穏やかな時間、

という最高の毎日を得ることができました。

そして、とても豊かで、
魅力的な人とたくさん会うことができるようにもなりました。

日本では、

お金を持っている人は、「悪」だと捉える人が多かったです。

実際はそんな典型的な「悪」人は少ないです。

そもそも

起業家としてお金を得るためには、

人に価値を提供しなければなりません。

すべてのビジネスは価値提供であり、
お金とは信頼や価値の対価なのです。

サラリーマンとして働いている方にも素敵な方はたくさんいますが、

起業家であり続けるということは

「価値を提供し続ける」といったマインドになるからこそ、

長く自分で事業をされている方は、
素晴らしい方ばかりだなあとしみじみ感じます。

私はそういった方からどんどん学んできました。

あと一步でうつ病という、
仕事はさんざんな状況でしたが、

プライベートでは最高のパートナーと結婚することができました。

今の夫です。

結婚し、これからの明るい未来に想いを馳せた時、
私はワクワクと「未来年表」を描きました。

「子どもは何人ほしいかな、家はどんなところに住みたいかな・・・」

そのとき初めて気づくのです。

「子ども2,3人を自由に大学進学させるとなると、共働き正社員でも家計厳しい」

という事実。

諸説ありますが、子どもが大学進学までにかかる費用は、
オール私立の場合、子ども1人に7500万円です。

私の親は、ありがたいことに
何不自由なく私立大学に行かせてくれたので、
(高校までは公立でしたが)

子育てにそんなにお金がかかると知らなかった
世間知らずの私はショックを受けます。

これはマズイと気付いた結婚直前、

私は、さまざまな「お金に関する本」を読み漁り始めます。

その時出会ったのが、

世界的ベストセラー

「金持ち父さん貧乏父さん」（ロバート・キヨサキ著）。

この本を読んで

「自分の代わりに資産に働いてもらう」

という考えを知り、

サラリーマンマインドしか持たない私の「お金の価値観」が大きく変わりました。

自分が働き続けなければいけない状況とは、

「ラットレース」から抜け出せないということ・・・。

金持ち父さん貧乏父さんでは、

「働き方」を4つに分類している事も、この時知りました。

キャッシュフロー・クワドラントと呼ばれます。

- ・ビジネスオーナー
- ・投資家
- ・自営業者
- ・従業員

お金に対して圧倒的に自由を獲得できるのは、

明らかに、従業員ではありませんでした。

でも私は従業員という働き方しか経験したことがなかったし、
ビジネスオーナーや投資家なんて、違う世界の話だと思っていました。

でもこの本をキッカケに、
投資や起業などに興味を持つことになります。

会社員生活のかたわら、

オタク全盛期から大好きだった
「小説」「サイト作り」
の延長で、

アメブロやワードプレスでブログを書き始めていました。

このときは趣味だったので、
ほとんど日記のような内容のブログを公開していただけです。

ですが、
しばらく継続しているうちに固定の読者様がついてくださるようになり、
試しにワードプレスに広告を貼って運営を続けたところ、

なんと1ヶ月に1万円弱の副収入を得られるようになりました。

もしかすると、ブログが仕事になるかも・・・？

と思い始めたのが、このときです。

私は、その後、

2つの運命的な出会いを果たして、

私の幼少期からの呪いであった

「可愛くない」コンプレックスと
「人間関係築けない」コンプレックス

を両方解消し、

自分で事業をするという、
今の仕事を実現できるようになります。

2つとも、奇跡と呼べるような出会いでした。

幼少期からずっと憧れていた芸能界に挫折し、
うつ一步手前で会社員も続けられなそうだった私を
その出会いは救い出してくれました。

私の人生での大きな出会いのうちの1つ。

その出会いとは、

ある事業家さんとの出会いでした。

直接的に私の人生を大きく変えました。

それは2016年の10月でした。

その出会いは、
私に起業家としての道を開いてくれることになります。

その方と出会った時の私は、
精神科通いで、仕事を休職中の鬱々とした会社員。

そして、私は、2017年の4月ごろから

私は本格的に
「個人でブログで稼ぐ」「会社に頼らずサイトで稼ぐ」
と活動を始めました。

私の師匠でもある起業家さんの
当時の月収は数百万円。

その出会いで、私の価値観は完全に崩壊しました。

月収数百万円？

なにか悪いことでもしてるんじゃないだろうか、

というような、信じられない金額を稼いでいる目の前の人は、

とても誠実で、真摯で、優しい人で、
私と2つくらいしか歳も変わらないお兄さんでした。

正直、意味がわからないと思いました。

と同時に、無知の恐ろしさを知りました。

知っているか知らないか。

そして、

「それを学べる環境にいるか？」

それで全てが変わってくるのです。

ちょうど、もうすぐ子どもが欲しいというタイミングで、産後の働き方に悩んでいた時期でもありました。

自分が精神的に病んでいる以前に、

会社の子育て中のワーママは、
時短勤務で本当に大変そうで・・・。

結局、休職から一度は会社に復帰したものの、
その後、
待望の第一子を妊娠し、やはり会社を退職することを決意。

おとなしく育休や産休を貰えばいいものを、

すでにうつ病一歩手前で休職した履歴があったりもしたので、
潔く会社は辞めて起業の道を選びました。

会社を辞めてからは、
出産までになんとか収入基盤をつくろうと、

妊娠中にも関わらず躍起になって仕事をしました。

もともとサイトを作ること、
文章を書くことは大好きだったので、
1日10時間くらいパソコンに向かいつつ、
3ヶ月で300記事書く（1記事1500～3000文字くらい）

という目標を掲げて、

師匠の教えを受けたり、企業のセミナーに通ったりしながら、
必死でサイトを作りました。

もちろんすぐに収益が上がるわけもなく、
会社員時代の副収入から1万円も増えないまま、

「こんなにやってるのに全然稼げない・・・」

という、精神的につらい日々を過ごします。

そして時は過ぎ、出産。

出産直後は慣れない育児に奮闘し、
あっという間にさらに数ヶ月が経ちましたが、

なんと産後放置している間に、
サイトからの収入がみるみる上がり始めたのです。

妊娠中に頑張った成果が、数ヶ月のタイムラグを経て現れ始めました。

ブログで稼ぐ仕事、サイトアフィリエイトは性質上、
二次曲線的に収入が上がっていくケースが多いのです。

私も典型的なそのグラフに乗っていました。

このときは、ついに希望の光が見えた気がして、
本当に嬉しかったです！

娘が産まれて半年ほど経った時、
この勢いを止めてはいけない！と、本腰を入れてサイト制作を再開。

そして、

会社を辞めて約1年経った月に、
遂にPC一台で、会社員の月給並みの収入水準に達しました。

師匠に出会ってから1年少々で、

起業家として
時間的にも、場所的にも制約が皆無な仕事、

それも私がずっと大好きだった
ブログやサイトといったWebメディアを通じての
「自己表現」という分野で、

仕事ができるようになったのです。

子どもの頃から
小説を書くことにのめり込んでいた私にとって、

このように文章を書く仕事や、
サイトを創り上げる仕事は、今も毎日楽しくてたまりません。

ただ、これで収入を得られるようになったのは、
ひとえに、学べる環境が良かったからだと思っています。

私は幸運にも、成功者の教えに基づいて、
技術やビジネスの原理を学ぶことができたのです。

私が何から収入を得ているかというと、
ブログサイトやメールマガジン、SNSなどを活用した情報発信です。

収入源は主に、インターネット広告代理。

私は労働時間に比例せず、365日ずっと収入があります。
もちろん、最初はゼロでしたし、
今はまだ師匠のように、月収何百万円というわけではありません。

ただし、既に時間的な自由は、随一だと思います。

大好きな家族や仲間と好きなものを食べている間にも、
なんなら私が寝ている間にも、

私の代わりに、
インターネット上にコツコツ築いた資産が、
価値を人々に提供して収入を生みだしてくれています。

仕事に場所の制約が全く無いので、

今月も、
名古屋、大阪、栃木、大阪・・・と
気づけば週1ペースで新幹線に乗って、

プライベートや仕事（セミナー開催や勉強会）で、
全国を飛び回っています。

日帰りで栃木に行った時は、
夫へのお土産に、宇都宮餃子を買って帰ってきました。

どこでも仕事が出来ると、本当に楽しいです。

私はWebエンジニアという仕事をしていたが、
今の仕事にプログラミングは必要ありません。

同業の方々も、
プログラミングが出来る人のほうが圧倒的に少ないです。

メールが使える、ワードが使えるばなんの問題もないくらいです。
どんな人でもメールくらいは使ったことがありますよね。

他のツールは
少しずつ覚えていけばいいのです。

そして、

私にとってもう1つの運命的な出会いも、

ちょうど会社を辞めて少ししたころに起こります。

私はその人と出会って、

【マインド】を徹底的に改革することができました。

幼少期からあれだけ根強かった

「私は可愛くないから仕方ない」

「私は友だち関係を上手く築けない」

という、

2つのコンプレックスを解消するに至るのです。

一番最初に書きましたが、

自分を愛せず、自信を持たず

「自分の想いや可能性を、見ないふりをする」こと。

これは全ての夢を阻害します。

私は自己表現が好きという

幼いころからの熱意がありながら、

同時に「私は可愛くないから」という、

他者と自分からの勝手な評価で、夢をいくつも諦めてきました。

また、

勉強ができることや数少ない友人関係すらも人から妬まれ

「さやちゃんはなんでも持ってていいよね～」

「あいつ痛いよね」

「素敵な○○ちゃんにすり寄っててウザい」

「私の悪口言ってるでしょ？」（※言ってません）

と心を抉られるような発言を

中学校から社会人に至るまで
度々受けて、いつも傷ついて、泣いて、

友人関係にずっとコンプレックスを持ってきました。

そしてコスプレイヤー時代や、芸能時代、
この仕事を始めてからも、

誰でも見られるネット上の匿名掲示板で、
名指しで悪口というか、
ありもしないことを書かれたりすることもありました。

「写真加工しすぎのブス」

「さやって最近太ったよね」

外見に関する悪口もガンガン書かれました。

そう、

「私は可愛くないから、仕方ない」

いつも、泣いていました。

誰かもわからない人に、攻撃されることが

怖くてたまりませんでした。

そんな有名人でもないのに、
外を歩くことすら怖かったこともあります。

その結果、

私は「人に嫌われること」を

極度に恐れるようになりました。

後に、会社でもやりたくない仕事にNOといえず
精神病になり、

果ては会社をドロップ・アウトして
個人で働くようになりました。

まあ、個人で働くのはすごく楽しいので、
結果的に良かったのですが・・・。

こんな私を、マインドの師匠は、
まるで優しい母のように受け止めてくれました。

「さやちゃんは本当に可愛いよ」

「美しさっていうのは、表情。取り繕った笑顔はお人形と同じだからね」

「妬まれる、じゃなくて『影響を与えられる人』ってこと。
さやちゃんは人の目を引く、素晴らしい才能もってる。
どんどん自分らしく、幸せだって発信していけばいいんだよ」

「何か言ってる人がいるかもしれないけど、みんな色々だから。」

でもね、私は、本当のさやちゃんを知ってるから ^^」

やさしい師匠の元で私は、何度も何度も泣きました。

私はずっと人が怖かった。

だから、こんなふうにも勇気づけて、
自信をもたせてくれることが、本当に嬉しかった。

そんなふうにつつ、
過去のトラウマや悲しかった出来事への捉え方を変えて、

傷を癒やして、未来に進めるようになりました。

「過去は変えられない」とよく言いますが、

「過去に対する捉え方」や
「過去の出来事に対する意味付け」は

いつだって変えることが出来ます。

でも、あまりに辛い出来事が多かったから、
一人で向き合うことはできなかった。

ずっと目を背けてきた。

でも師匠は、1年近くかけて、

私が「じぶんでじぶんの幸せを創り出せる自信」を持てるよう、伴走してくれました。

もしかすると、
自分で事業を起こすという挑戦や、

マインドを変えることを「めんどくさい」と思う方もいるかも知れません。

本当にできるのか？と疑って、
行動できない人が多いかもしれません。

私も、2人の恩人に出会うまで、
人生を変える決断なんてできませんでした。

でも、少しめんどくさいことをやらないことによって、
後々もっともっとめんどくさいことになっているのが世の中の大半だと思います。

ほとんどの人が「めんどくさくて」自分で事業や仕組みを作らないから、

労働者から抜け出せないのです。

自信がない自分から、変わることができないまま歳を重ねるのです。

私は、新しい世界入るための投資は惜しまないようにしています。

それは情報に投資する場合もあるし、
ツールに投資する場合があります。

現在進行系で、いろんなものに投資しまくっています。

- * マインド改革に30万円
- * 講師業のために40万円
- * 個人Webビジネスを学ぶために15万円
- * マーケティングを学ぶために40万円
- * 投資事業の勉強に夫婦で50万円
- * 事業の個別コンサルティングに160万円

などなど、
複数の事業について、ゆうに300万円以上は学びに投資しています。

これだけセミナーに行ったり、
コンサルを受けたりもして思うのは、

やっぱり、ショートカットは大事だなということです。

独学はとても遠回りです。
プロから学ぶことで、正しい道筋を教えてもらい、
夢へショートカットすることができます。

昔は、独学が美德とすら思っていたことが、

一人でもがくのは、時間がかかりすぎます。

なんなら、マインド改革とかは、
いくら時間をかけても一人じゃ無理です。

自分で「自分のあたりまえのマインド」に気づいて、
修正できる人なんてまず居ません。

「じぶんのあたりまえ」は、
自分で気づけないから「あたりまえ」なんです。

私は今も、
セミナー開催やWebマーケティングについて指導を受けているのですが、

やっぱりプロから指導を受けると、
圧倒的に早く成長できることを感じます。

私がお金とは

「しあわせと交換できるチケット」

だと思っています。

お金を使って、
時間を短縮したり快適な環境を過ごせるならば、
私は喜んで使おうと思えるようになりました。

そこでケチっている間に、
収入を増やすためのスキルを身に着けたり、
勉強し続ける方が、

後々自分も、自分の周りの大切な人までも、
豊かになることがわかっているからです。

私はかつては見えなかった世界を
今はたくさん見ることができています。

学べば学ぶほど、時間的なゆとりが増えていき、
少しずつ収入も伸びていきます。

何よりも、関わる人が変わりました。

お金に全く不自由していない人たちと会う機会もありました。

昔は「別世界の人」だと思っていた、
ビジネスオーナーや投資家です。

なお私は現在、
起業家でありながら、投資家でもあります。

よくいう

「周りの人間5人の平均年収が自分の収入になる」

とはリアルだなあと感じています。

桁違いに豊かな人というのは、
あたりまえですが、人の悪口とか言いません。

そもそも自分の人生に集中して生きているので、他人の揚げ足を取るという発想すらないのです。

人の行動は以下の3つに左右されます。

- ・ 過去の経験
- ・ その時の感情
- ・ 価値観

会社員マインドしかない価値観に染まっていたら、会社員の限界くらいまでしか収入は伸びないし、

簡単にいうとお金持ちの価値観に染まった上で、正しい行動を取れば、自ずと収入も伸び、

精神的・時間的なゆとりも出来るのです。

今回のこの文章では、私が

「私は可愛くないから仕方ない」

「友人関係も上手く築けない」

というコンプレックスから、多くの夢や希望を諦めてきた話から、

2人の師匠と出会って、

お金や労働に対する価値観が崩壊し、
マインドも変革し、

起業家として自由なママになり、
大切な家族と仲間と生きることができるよう、

世界が変わった話をしてきました。

人は、自分とは異なる価値観の人間と会わないと、

自分の殻から抜け出すことができません。

私は運良く、そんな自分とは全く違う価値観の
2人の師匠と会うことができました。

信頼できる先生を見つけ、
正しいやり方で自分を変えるというのは、難しいけれどすごく大切なことです。

汗水垂らすも、
努力することも時には必要です。

ですが、その裏には、いくら汗水垂らしても、成果が実らない場合もあります。

間違ったやり方でやって失敗しても、

それはすべて経験になるけれど、

遠回りだし、

成功するまで頑張れずに心が折れてしまうかもしれません。

特に個人でビジネスをする場合、

やってもやっても成果が出ないこともありますし、

やったらやったで、

見ず知らずの、いわゆるアンチのような人から攻撃されることもあります。

かつては私も豆腐のようなメンタルだったので、

「もうブログやめよ・・・」

と凹んだことも数知れず。

比喻じゃなくて、

めちゃくちゃ泣いていました。

拳句の果てに、

見ず知らずの人だけでなく、
私のブログを見たリアルな友だちから、

超攻撃的なLINEがきたこともあって、

その時は2,3週間はショックで立ち直れず、
毎晩お風呂で泣き続けました。

マインド改革した今となっては、

「みんな人生色々だから仕方なかったのかもね」

と思えますが、

当時は、私が大好きな友だちからの攻撃だったので、
本当にショックでした。

友だちに裏切られたように感じ、
人間関係を上手く築けないコンプレックスの塊でした。

私は学生時代から会社員時代に至るまで、
人間関係を築くのが本当に下手くそでしたが、

今の仕事を始めて、マインド改革をしてからは、
おかげさまで大好きな人ばかりに囲まれています。

でも別に、

ずっと周りの人が悪かったわけじゃなくて、
問題は私にあったんですよね。

自分を愛せていなくて、自分に自信がないから、

人に優しくすることもできない。
人を許すこともできない。

だから、人間関係が上手くいかない。

いつだって、自分が変われば、世界は変わる。

自分を愛するというのは、とても難しいことです。

私たち日本人は、幼い頃から

「勉強できる子がいいこ」
「人と違うのは駄目なこと」
「進学校や大企業に就職したら安心」

という価値観を植え付けられて生きてきます。

でも、そんな価値観を取っ払って、

自分の弱さも駄目なところもを認めて、
言い訳するのもやめて、

どんな自分もありのままで愛する。

条件付きではなく、無条件の愛を自分に注ぐ。

これは本当に難しいことです。

でも、少しずつでも、人生を好転できれば、

こんなにいいことはありません。

幸い、私は自信喪失状態で、
言い訳だらけの人生を止めることができました。

まだまだ至らないこともあります。

ですが、20代にしてこの考え方を身にすることが出来たのは、
「幸運」に他なりません。

言い訳を重ねていき、
「可愛くないから仕方ない」と自信を失い、

自分を愛せず
人の顔色を伺い続けていたら、ろくな人生は歩めなかったと思います。

どんな自分も認めて、愛して、夢に向かって行動する。

そうやって夢はかなっていく。

どんな夢だっていいんです。

お金が欲しい。
ブランド服やバッグが欲しい。
海外旅行にいきたい。
結婚したい。
会社に行きたくない。
認められたい。
結果が欲しい。

どんな夢にも、素直になっていいんです。
そのために努力すればいいのだと思います。

ただし、正しいルートで努力を進めるために、自己投資は必要です。
信じられる先生を見つけて、お金も時間も投資するんです。

最初は独りよがりと思われるような夢でも、
叶え続けていけば、
自分を満たし続けていけば、

いつかその自己愛は溢れて、
必ず他者をも愛せるようになります。

自分の大切な人に、
もっと愛を注げるようになります。

これは絶対です。

だから自己中とか、わがままとか

そんなふうには自己卑下する前に、
自分を愛しきらないといけません。

自分にすら注げない愛を、他人に注げることはないんです。

人生は、知識と経験で変わります。

知識とは、学校の勉強ではありません。

今、私がお伝えしているような
「自分を愛する技術」なんかも、知識です。

働き方についての知識もそうです。

私は会社員時代、

収入を増やすには出世するか、
転職するしか無いと思っていました。

それが副業からのスタートで、起業し、
お金だけでなく、圧倒的な時間の自由も手に入れることができました。

こういった働き方を、
ほとんどの人がいまだに知りません。

いや、知っていたとしてもやっていません。

ほとんどの人はお金がないと言いながら、
節約に勤しむか、貯金を底まで使い込み、
収入自体を増やすという発想がないような気がします。

節約して何かを我慢するくらいなら、
我慢せずに使えるくらい稼げる方法を探せばいいのです。

お金があれば、大切な人を守ることができます。
大切な人を喜ばせることができます。

わたしも昔は、

汗水たらして一生懸命、長時間働き、
苦手なことも克服するのが仕事だと信じていました。

だからこそ、毎日泣きながらも、
うつ病直前まで、自分なりに頑張ったりもしました。

でも、そうやって自分が苦しみながら働いていると、

楽しみながら働いている人に嫉妬したり、

楽しむこと自体に罪悪感を持つようになります。

改めて

「わたしは運が良かったなあ」

と思います。

価値観を変えてくれる本や、
恩人である2人の師匠に出会えたからです。

もし知らなければ、
うつ病一歩手前で会社をドロップ・アウトしたあと、
専業主婦として節約に勤しむ日々を送っていたと思います。

そして一生、

「自分は可愛くないから仕方がない」

「友人関係を上手く築けない私」

というセルフイメージで夢を諦め、

苦しみ続けていたと思います。

私はずっと人が怖かった。

でも今の私は、昔よりずっと柔軟で、

自分でいうのもなんですが、

人に優しく、

愛する家族や友人と、

笑顔いっぱい過ごせるようになりました。

それは自分を愛せるようになったからです。

自分を愛せる人は、人を愛することができます。

人を信じることができます。

マインドを整え、
ビジネスの勉強を深めている今は、

月収100万円以上、
年収1億円以上という異次元レベルの事業家さんとも出会うようになり、

自分のステージがどんどん変わっていくのを感じます。

正直な話、私は

「日本の女性の働き方を変えたい！」

とか、大それたことを言うつもりはありません。

変化を望んでもいない人様の人生に口出しするのはエゴだと思います。

ただ私は、

過去の私のように

自分を愛することができず、自信を持たず、
人の目を気にしてばかりいる、

でもどうしても変わりたい、変わる努力をしたい、

そんな女性に向けて、
お伝えできるヒントがあるかなと思って、今この文章を書いています。

じゃなきゃ、わざわざこんな長文で

「私は可愛くないから仕方ない」
「人間関係も上手く築けない」

と何度も書き、

学生時代に友だちから浴びせられたナイフのような言葉の数々や、
自分がうつ病直前で休職した話とか、
匿名掲示板でブスとか痛いとか散々叩かれた話とか、
大好きだった友だちから批判のLINE来てめっちゃ泣いたとか、

そんなこと公開しないです。

こんな私でも
師匠に出会って、学び、行動して

人生を変えることができました。

この話が、誰かの勇気になれば本当に嬉しいです。

最後に、

私は働き方についての発信もしていますが、

お金があれば自由になれるかといえば、それは絶対ではありません。

実際、私が出会ったお金持ちでも、
日々とても忙しそうの方もいます。

お金だけでなく、
時間的な自由や、精神的な自由が必要です。

私は、
会社員時代は貯金が趣味で、

毎月コツコツ積み重なる貯金通帳を眺めて幸せを感じていましたが、

通帳を眺めても、
自分の能力や世界観は、何も変わりませんでした。

一方、
師匠からの教えや新しい出会いに投資することで、

新しい価値観を知ることができ、
少しずつ人生は変わっていきました。

みんな色々やりたいことはあると思います。

- ・ 頻繁に海外旅行に行きたい
- ・ お金にならない趣味をとことん極めたい
- ・ 漫画やアニメや映画を見まくりたい
- ・ 大好きな洋服やコスメを買い漁りたい
- ・ リッチなホテルでアフタヌーンティーをしたい・・・

わかります。

そんな想いはあれど、

新しい働き方を知ったり、
マインドを改革して夢に向かって行動し始めれば、

「時間とお金の自由」

「精神的な自由」

を手に入れれば、

上に挙げたような希望は、
あとでいくらでも叶います。

もちろん、自分自身の望みだけでなく、
家族や大切な人の望みも叶えることができます。

人生における豊かさとは「選択肢の多さ」であり、
どんな選択肢も選び取れるためには、

自分を愛して、自信を持つことが必要です。

「PC一台で働き、生きる世界を選べる私になる」
私の働き方のコンセプトであるこの言葉。

自分を愛し、
大切な人にも溢れた愛を注げるようになることで、
「生きる世界」
はとても心地良いものになります。

働き方を見直すことも大切ですが、

「ノウハウばかり求めて成果があまり出ていない」
という場合は、

まずは自分に自信があるか、
人目ばかり気にしていないか、

「どんな自分でも無条件に愛せているか」

ぜひ自分の心に尋ねてみてください。

ここまで読んでくださったあなたには、心から感謝しています。

こんな超長い文章を読んでくださって
本当に本当に嬉しいです。

今回は、私の正直な思いを書き連ねました。

あたりまえですが、この話は全部わたしの実話です。

正直、書くのやめておこうかなとおもうエピソードもありました。

向き合いたくない過去、
かつては消し去りたい過去だと思っていたものすらあります。

でも、いまは
人生のすべての出来事に感謝しているし、

すべての出来事を
未来への力にできる自信ができたので、

感情のままに書いてみました。

この話を読んだ方が、

昔の私のような世界、

「いつも見えない誰かに、怯えているような世界」

から抜け出すために、

自分を愛せるようになり、

自分の感情に嘘をつかないで生きてくれることを

心から願っています。

改めて、ここまで読んでくださり、ありがとうございました。

感想はいつでもお待ちしております。

なお、私の具体的な働き方については、
メルマガ読者限定のセミナー動画でお話ししています。

今後のセミナー情報など、
直接お会いできる機会についても、

メルマガでクローズド、
ないしは先行でお届けしていきます。

無料ですのでぜひ登録してみてください ^^

心からの感謝を込めて。

2018年10月 兵藤さや

私のメールマガジンは下記リンクから登録できます。

<https://my30p.com/p/r/qWNYIBc5>